

## 斉藤健次郎：宮原誠一「生産教育論」について

田中萬年の「1950年代における労働と教育をめぐる課題」に関して当時の事情を補足したい。

平凡社の教育学事典は、昭和31年1月刊行の事典であるが、当時としては大きな刊行事業であった。この事業が学者や研究者に刺激を与え、混沌たる状況が関係者の協力によって整理され、構成され、系統化された面も少なくない。生産教育は、まさにそのような格好のテーマであった。出版者と執筆者の間で事典出版の作業が進捗するのではなく、両者の間に、研究グループが形成され、問題が整理されたのである。事典の「生産教育」の項目は、そういう痕跡を濃厚に残している。「生産教育」の編集業務は、当時の研究の拠点の一つであった東京工業大学教育学研究室であり、編集会議に関わった研究者は、細谷俊夫・成瀬政男・清原道寿・桐原葆見・鈴木寿雄・宮原誠一・長谷川淳の各氏であった。特に「生産教育」に深く関わったのは、清原道寿・長谷川淳・鈴木寿雄等であった。会議で話し合われたことは、おおむね清原先生から助手達に知らされていた。清原氏は、戦争中にあまり熱心に職業教育をやりすぎて、特高に睨まれ、思想犯として牢獄に放り込まれていた人物である。人間がひとまわり大きかったので、助手達は清原情報を楽しんで聞いていたのである。事典では清原先生がまとめたと書いてある。助手達は、会議には出席しなかったが、生産教育の原稿の変遷については、的確に把握していたのである。関係者の名前を並べてみると、どの先生も特定の分野について専門を完成した人ばかりである。

細谷俊夫 教育方法の専門

成瀬政男 技術教育

桐原葆見 労働科学

長谷川淳 科学技術教育

清原道寿 職業指導

鈴木寿雄 学習指導要領

宮原誠一は、産業教育に関する特定の分野について専門を持っていない。そのため、生産教育と生産主義教育を分けたり、生産教育論と生産教育を分けたりして、揺れが止まらなかったのではないか。

平成25年10月15日

斉藤健次郎